

1976年に発売した「ロードバル」等のファミリーバイクは、生活の足として“よりシンプルで手軽な二輪車”のカテゴリーを確立し、需要を創造してまいりましたが、経年とともに“ファッション性に優れたより個性的なモノ”へと多様化が進み、さらに“利便性の高い”モビリティへのニーズが高まりました。

このような中で、二輪車の持つ優れた機動力はそのままに、より扱いやすく、高品位なデザインの採用により、所有する喜びを満たす簡便なモビリティを創造することで、今まで二輪車にあまり関心なかった人たちを含め需要を喚起すべく誕生したのが、新感覚スクーターの初代「タクト」でした。

その後「タクト」は、下記4項目のコンセプトを連綿と受け継ぎながら、最新の技術を積極的に採用し進化してまいりました。

タクト開発のコンセプト

- ・省燃費で力強く扱いやすいエンジン特性
- ・ゆとりある居住スペースと快適な乗り心地
- ・機能的で利便性の高い装備仕様
- ・幅広い年代が許容できる高品位なシンプルデザイン

初代 (1980年～)

初代は、次代を見据え、3.2馬力の2ストロークの強制空冷エンジンに、容易な始動性が得られる「セルスターター*」や「自動チョーク機構」、スムーズな走行を実現する「自動変速機」(無段階変速機 V マチック)、さらに日常の保守点検の負担を軽減する「無接点式 CDI 点火装置」、 「自動開閉式燃料コック」など数多くの新技術を組み合わせて採用するなど、扱い易いスクーター特性を実現。その結果発売以来約二年間で72万台の販売台数を記録いたしました。1981年7月にはサイドトランクを設けたフルカバードタイプの「タクト・フルマーク」を追加し発売しました。

* タクト DX セル付モデルに採用



■1980年 タクト

二代目 (1982年～)

二代目は、より洗練されたデザインに変更し、力強く燃費性能を向上させた新設計エンジン(4馬力)にスムーズに自動変速するトルクセンサー付き V マチックを組み合わせて搭載するなどフルモデルチェンジ。さらに日常の利便性を高めるために、視認性の高いメーター類や被視認性の高い灯火器など充実機能を装備しました。

また、「タクト」に加え、一代目からラインナップに加わった「タクト・フルマーク」「タクト・フルマーク・カスタム」をラインナップに加え3タイプを同時発売しました。



■1982年 タクト・フルマーク